

— どのような未来を描きますか —

# 外遊びの 未来

Vol.2

あそびの「まほう」から  
まちをながめる。



一般社団法人

プレーワーカーズ







# はじめに

## あそびの「まほう」から、 まちをながめる

この冊子は、「外あそびを通じた生活や地域との関わり  
合いについて」考えるためのものです。

岩手県釜石市の栗林小学校・鶉住居小学校の小学生・  
親・祖父母世代の計282名のアンケートの回答に基づき  
作成しました。実施に当たっては小学校の先生方はじめ、  
多くの方々にご協力いただきました。

ご協力いただいた皆様、心より御礼申し上げます。

この冊子を通して、外あそびを通じた地域との関わり合  
いを見直すきっかけになればと思っています。

時代が変わる中でも、大切にいくべきことを確認し、  
今後の地域づくりのための資料にしたいと考えています。



一般社団法人

プレーワーカーズ



～「あそび」を通して、

# 子どものあそびの「ま

あそびが成り立つには、ま・ほうが重要だと言われています。

「ま」とは・・・3つの間、サンマ(三間)「仲間・空間・時間」のこと

「ほう」とは・・・どのようにあそぶか、あそびの「方法」のこと。

# ま

3つのま「間」



## 時間

あそぶ時間のこと



## 仲間

あそぶ友達のこと



## 空間

あそぶ場所のこと



まちをながめるために～

# 「ほう」を見直す



この「ま・ほう」要素によって、あそびが成立すると言われています。最近では、少子化、習い事の増加によって、「ま」が減少することで「ほう」が限定されるようになっていきます。このように子どものあそびの「ま・ほう」が弱くなる中で、禁止事項や規制など、思いきったあそびを許容しにくくなっていることが言われています。

# ほう

ほうほう



## 方法

あそぶ方法のこと

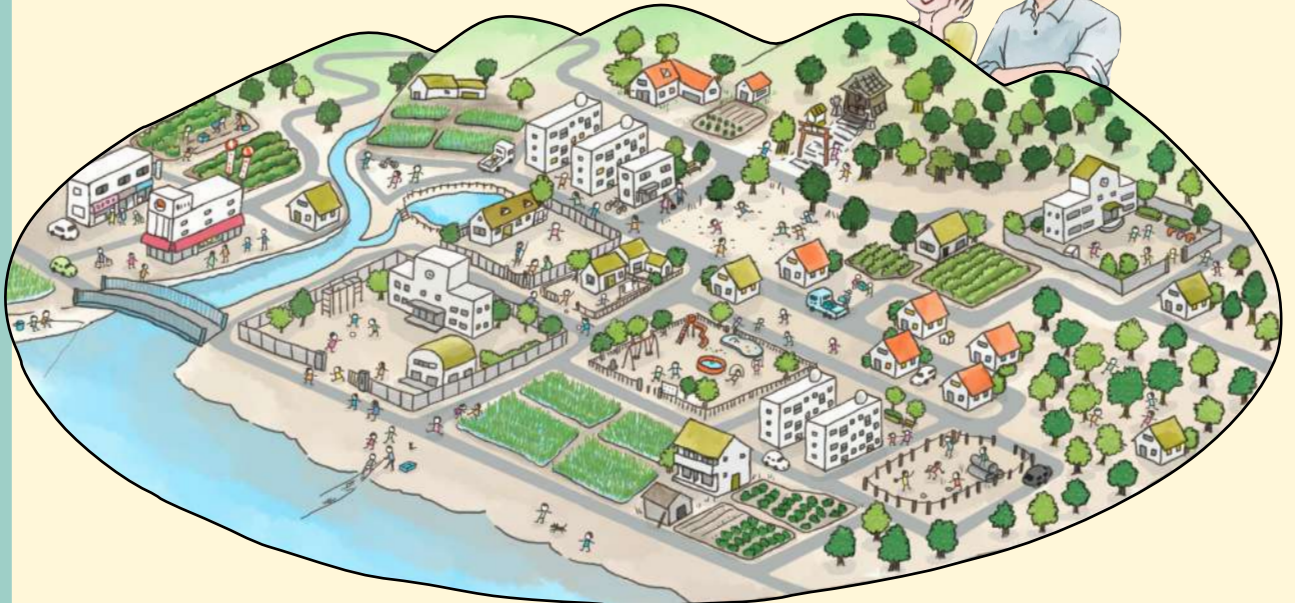
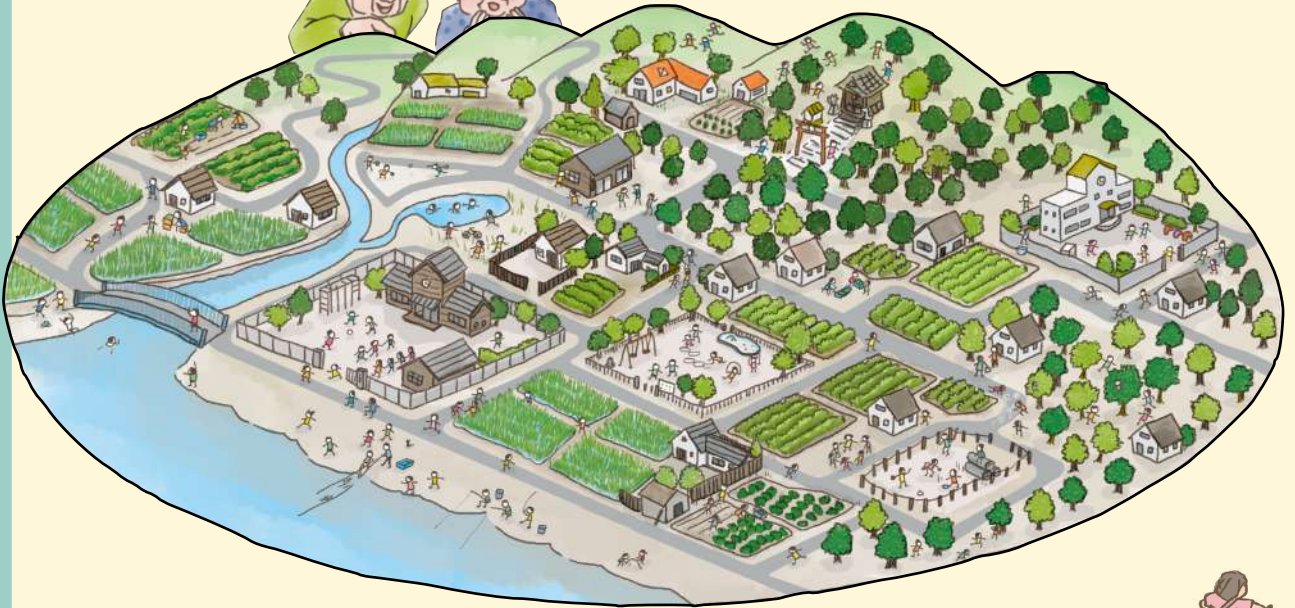


なぜだろう。

あそびの思い出、ずっと覚えている。



# あそびの「まほう」



あそびの「まほう」は  
何年経っても生きています

# どう変わった？



同じように見える場所でも  
“あそびば”としてはどうでしょう…

「さく」が増えたり、護岸が変わったり…

## 3つの地図からあそびを見つけられるかな！？

～探しながら、まちのちがいを感じてみよう～

①



②



③



④



⑤



答えは次のページ下にあります。



▶次のページから釜石で子どものあそびの「まほう」が  
どうなっているのかみてみましょう。



# あそびの「まほう」 三世代で比べてみる

大人たちが子どもだった頃のあそびの体験と比べながら  
「いま」の、子どものあそびがどうなっているのかを考えます。



子ども世代

親世代

祖父母世代

	児童数	児童数	%	回答数	%	回答数	%
栗林	43	36	84%	35	81%	16	37%
鶉住居	154	66	43%	95	62%	35	23%
計	197	102	52%	130	66%	51	26%

※アンケートにこたえてくれた人

比べるに当たっては、あそびの「まほう」の4つに関して  
下の2つを考えながら、見てみてください。

Q

## どう思いますか？

それぞれ「ま・ほう」に対する質問に対して、  
ご自身は、どれに近いですか？  
ページの裏側に、今回の結果を示しています。



?

## 10年後、 どのようになると思いますか？

今の子ども世代の答えを見ながら、  
近い将来子どもの外あそびはどのようになると思いますか？

答え

- ①左上の地図…池 ②左上の地図…橋の左 ③左下の地図…①の池の少し上  
④右下の地図…左下の学校の校庭 ⑤右下の地図…右にある学校の入り口





自分でやりたいことができる時間  
あっという間にすぎてしまうから  
気づいた頃には帰る時間をがすぎている

じかん

# 時間

あそびじかん

Q. 平日は、  
何日くらいあそんでいる？/いた？

じかん

# 時間

あそびじかん



平日の子どもの過ごし方としては、あそぶ日は平均「3.7日」ありますが、外あそびは「1.3日」、ゲームやYoutubeが多く「2.7日」となっています。

三世代で比べてみても、子ども世代で外あそびの日数が極めて減っています。



※平日（月～金）の平均の日数になります。

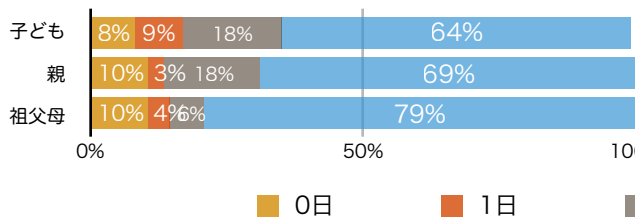
※放課後子ども教室、児童館の日を、遊べると認識しているかどうかによって外遊びの日数が前後することが想定されます。

\*子ども世代では、スクールバス等で帰宅後、宿題などで短時間しかあそぶことができないがあそび方に影響していると考えられます。

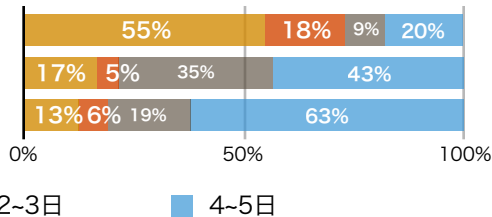
\*回答者の子ども世代での利用者  
・放課後子ども教室 12人/33人  
・児童館は、17人/65人  
(17人は、ほとんど5日間全て児童館)

\*祖父母世代では、放課後は家の手伝いであそぶ時間がなかったという方も何名かいらっしゃいました。

平日のあそび

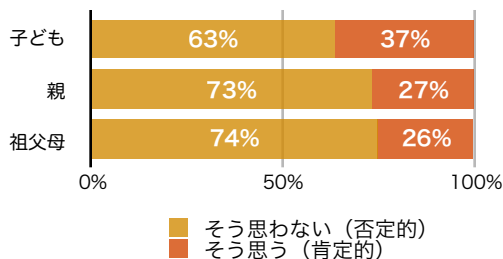


平日の外あそび



■ 0日 ■ 1日 ■ 2-3日 ■ 4-5日

子どもはあそぶより、スポーツや習い事をしたほうがいい



■ そう思わない (否定的)  
■ そう思う (肯定的)

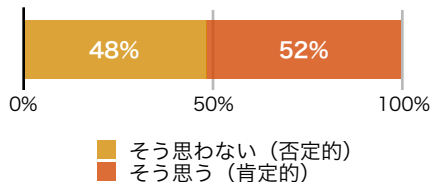


「そう思わない」が多いですね。本音はあそんでほしいけど、周りの子がやっていたり、両親共働きを考えると…



## 子どもの意識

あそぶ時間はじゅうぶんある



■ そう思わない (否定的)  
■ そう思う (肯定的)

意識は半分ずつにわかれています。塾・習い事はもちろん、バスで「家に帰ってからあそびに行く時間がない」という声もありました。



なかま

# 仲間

あそびともだち

「なにしてあそぶか？」  
それは友だちが集まってから、きまるもの。  
友達とやると、もっとおもしろく感じるね。

Q. ともだちとあそぶとき、  
何人ぐらいであそんでいる/いた？



# なかま 仲間

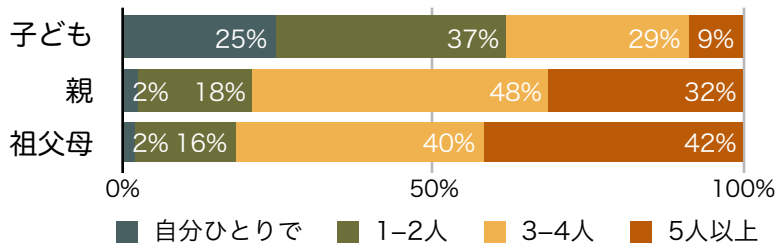
あそびともだち



## あそび集団の大きさ

一番多いのは… 「子ども」世代は、「1~2人」が4割  
「親」世代は、「3~4人」が半数  
「祖父母」世代は、「5人以上」が4割

放課後にあそぶ友だちの人数

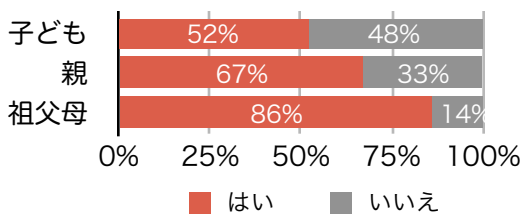


「子ども」世代では、「自分ひとりで」も25%と増えているのが気になります。



## あそび集団の質

友達の年齢差

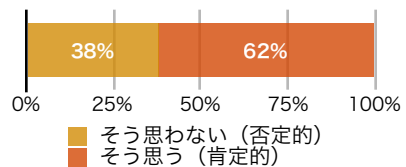


今でも半数の子は、年齢の違う友達とあそんでいけるけど、へってきています。

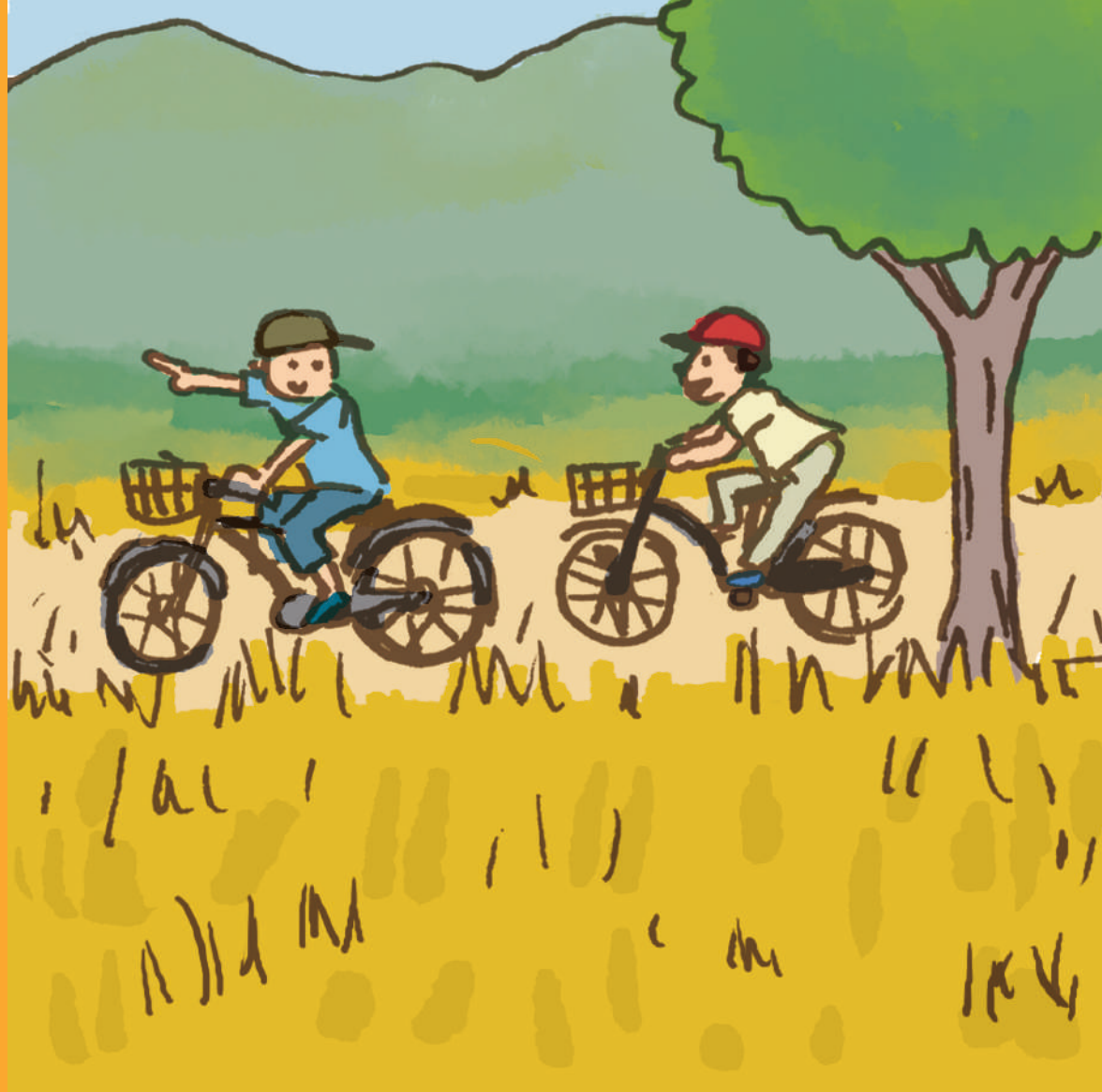


## 子どもの意識

放課後にあそぶ友だちの人数はじゅうぶんいる



今の子ども6割の子は友達の人数はじゅうぶんいると思えているようです。



あそびは、どこでもできるもの。  
でも、あそび場がみりよくだと、  
ワクワクするし、たくさんことができる。

くうかん  
**空間**

あそびば

**Q.** あなたにとってあそびばといえば、  
どんなところですか？/でしたか？



「あそび」を通してまちを見るヒント



## あそび場としての空間の変化

みじかにある空間（くうかん）も、  
少しずつ変わってきました。

「あそび」のための空間としては  
あそびにくくなったのかもしれない。

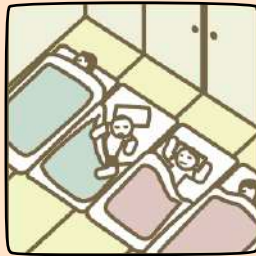


家



昔：みんな同じ部屋。家の中にいると  
外に行ってこいと怒られた。

今：一人ひとり、部屋にわけられた。  
室内が、とてもかいてきになった。



道・家の周り

昔：ジャリか土でできていて、車もあまりいない。

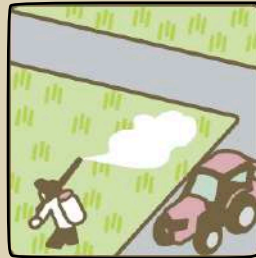
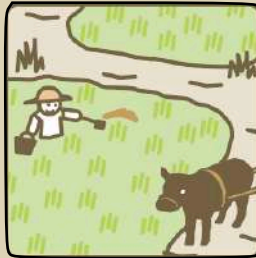
今：たくさんの車が通り、コンクリートになり  
道は「あぶない」イメージになった。



～ 最初の3つの地図のちがいが、見えてくる！ ～

昔：木の実、クワの実などを食べたりしていた。  
どじょうなど、たくさん生き物がいた。

今：農薬がまかれるようになってから  
植物自体を見なくなったり、食べなくなった。

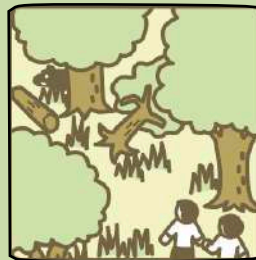
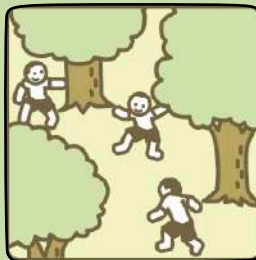


農  
地



昔：生活の中で利用されており、整備されていた。

今：生活で利用しなくなったため、  
荒れていて動物がまちまで来ていて危ない。



山  
・  
森



昔：気軽に入れて、泳ぐ練習をしたりしていた。

今：川や海の護岸も整備され、距離感ができた。  
気軽に遊びに利用することはなくなった。



川  
・  
海

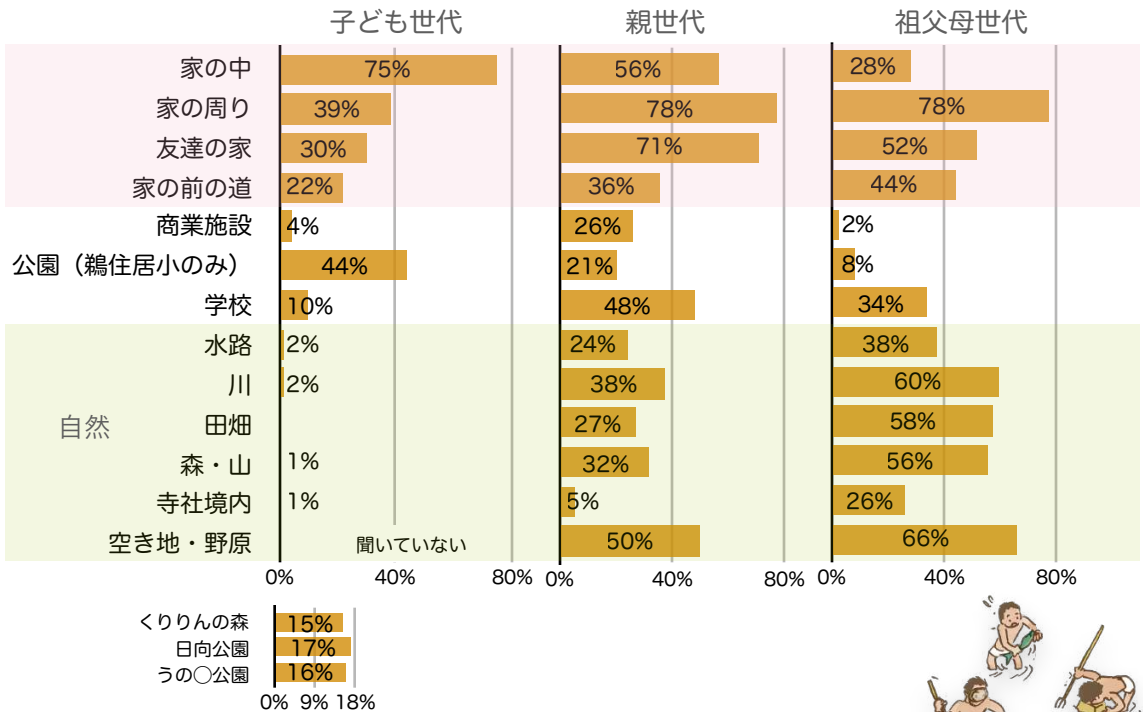




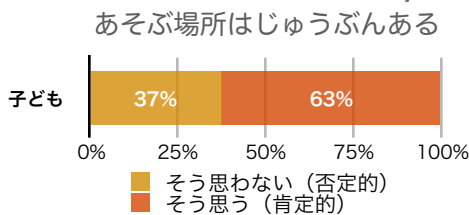
# くうかん 空間 あそびば



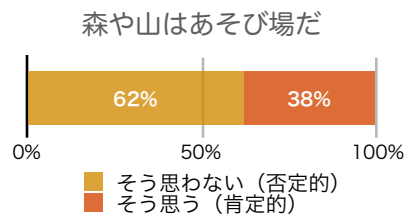
- ・「家の中」が、親世代・子ども世代と徐々に増え、子ども世代では一番人気、続いて「公園」となっています。
- ・自然のあそび場は、子ども世代になると急激に減少しています。



## 子どもの意識



やや肯定的な子が多いですが、4割は否定的です。身近にあそべる場がないという意見も多く書かれていました。



やや否定的の子が多くなっています。上の結果から見ると、思ったより多くの子が森や山は「あそび場」と思っています。





ほうほう

# 方法

あそびかた



あそび方が変わると  
人やモノ・自然との関わり方も変わるもの  
あそびは、あるもの？それともつくるもの？

Q. なにをしてあそんでいる？/いた？



「あそび」方は、どう変わったのか？



# あそび方法 の変化



大きなあそびの特徴の変化は  
あそび道具は、「つくる」ものから「買う」ものへ  
あそび空間は、「自然」から「専用」の場所へ



## 川・海



昔は川や海で、泳ぎの練習や魚とりをしており、年上の方が教えてくれていた。今でも釣りは人気だが、釣り堀がつけられたり、泳ぐのはスイミングスクールで教わるようになった。



## 山・森



- ① 竹でつくるスキーやソリもプラスチックのものに。「山」でなく「専用の場所」でやるようになった。
- ② 昆虫取りも、スーパーで買えたり、道具も買ったものをつかうようになった。  
(かつては、「とりもち」とよばれる、ベタベタしたものと棒を使った。)
- ③ 「森への探検」も、本当の世界での体験よりも、ゲームの中の「森への探検」のほうが多くなった。  
(ゲームの中の森への探検は、あくまでもゲームですが、とある地域で子どもがこたえたため)



## 農地

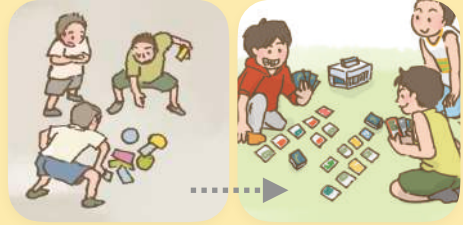
## 野球



「ポカン（ボール）」が、どの地域でも田んぼや空き地で行われていた。  
今はスポーツ少年団で、校庭や専用のグラウンドで練習するようになった。



## バトル



昔はメンコや、ベーゴマで勝つと1つもらうことができた。  
今でも、カードゲームを集めて戦うなど似ている部分がある！



# ゲームの大きな変化！

～いつでも、どこでも、だれとでもできる時代へ～

「ゲーム」も速いスピードで進化し、より本物に近いものになってきています。  
最近では、ゲームをインターネットにつなげることで、友達と直接会わなくてもゲームの中で待ち合わせをして、遊ぶことができるようになっていきます。



時代	おみせ時代	おうち時代	どこでも時代	だれとでも時代
ゲーム機	インベーダーゲームなど	ファミコン、PS、64など	DS、PSP	スイッチ、スマートフォン
持っている人	地域にいくつか	誰か1人	1人1つ	
どこで	みんなが集まる店 喫茶店など	ゲームを持っている人 の家の中で	・外でも、中でも どこかに移動して	・外でも、中でも 移動しなくてもいい
だれと	・ともだち1-2人	・ともだち1-4人 ・2人、4人までといった人数制限		・世界中の誰とでも ・何人でも



# ほうほう 方法

あそびかた



- ・子ども世代では、ゲームやYoutube、お絵かきと室内でできるあそびが多くなっています。
- ・おにごっこはどの世代でも人気です。

順位	子ども世代		親世代		祖父母世代	
	あそび	票数	あそび	票数	あそび	票数
1	ゲーム	44	スポーツ	50	おにごっこ・かくれんぼ	20
2	Youtube	15	おにごっこ	42	なわとび	11
3	お絵かき	15	川や海で魚釣り、生き物をとる	22	ビー玉、おはじき、お手玉	11
4	おにごっこ	13	ゲーム	22	川や海で魚釣り、生き物をとる	9
5	スポーツ	13	缶蹴り	13	缶蹴り	9

※スポーツ…  
サッカー、バスケなど

※スポーツ…  
野球、ポカンなど

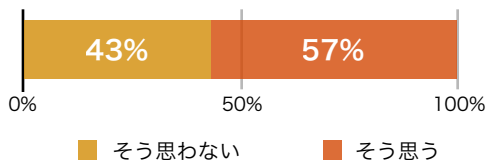


ちなみに「放課後子ども教室」ではおにごっこ、「児童館」ではサッカーといった、外でのあそびが書かれていました。



## 子どもの意識

ゲームが一番楽しいあそびだ



半分以上の子どもたちが「ゲームが一番楽しいあそびだ」は、と思っているようです。たしかにゲームがダントツで人気でした…

昔にも、同じようなゲームがあったらやはり同じような結果になったのでしょうか





おもい

# 思い



あそびに対して思うことはそれぞれ違う。  
その中で、時代が変わる中でも大切にしたいこと。  
おうちの人、地域の人から

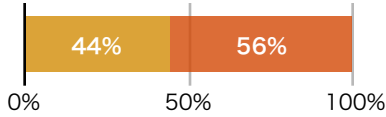
- Q. 外であそぶことは、  
なぜ、おもしろい/かった？  
(外であそぶことが好きではない人は  
なぜ、外あそびが好きではない?)



# おも 子どもの思い



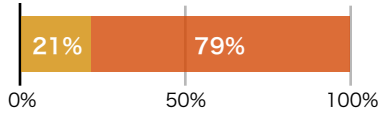
外であそぶより、なかで  
あそぶほうがすきだ



なかでのあそびがすきな人は  
半分くらいいるのね。  
それぞれ理由を聞いてみたいなー。



自由にあそべている



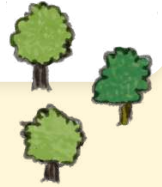
8割近くの子が、自由にあそべて  
いるようね。できれば子どもた  
ちに「どうなったら自由なの  
か」聞いてみたいわ。



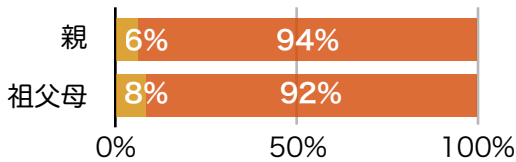
■ そう思わない (否定的)  
■ そう思う (肯定的)



# おも 大人の思い



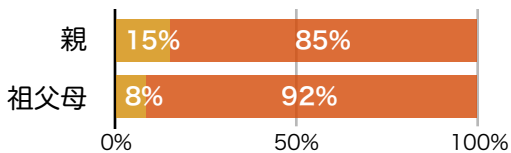
子どもが気軽に遊べる、あそ  
び場をつくったほうがいい



少子化が進む中で、子どもたち  
が気軽に集まれる場所がもとめ  
られていると思います。



子どもは、地域の自然の中  
であそんだほうがいい。



雄大な海、山に囲まれている釜石で  
自然の中で、豊かに育っていつて  
ほしいですね。



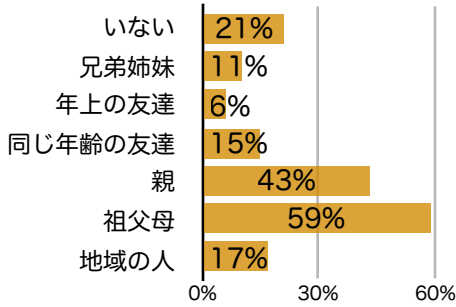
「くりりんの森」のように、あそびを理解してくれる大人がいて  
自然と関わることのできる場所があるといい！という意見がありました。



# 子ども世代の 自然との関わり

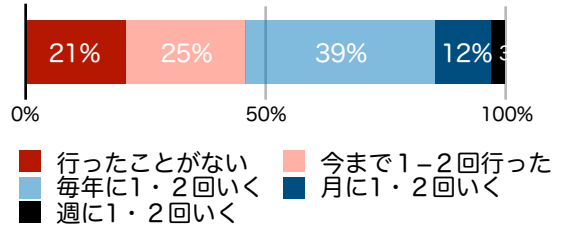


自然のことをおしえてくれる人



自然のことは家族から主に教わっていて、「祖父母」から教えてもらっている人が6割で、「親」の4割よりも少なくなっています。

自然の場所（海や川、森や山）に  
行ったことがありますか？



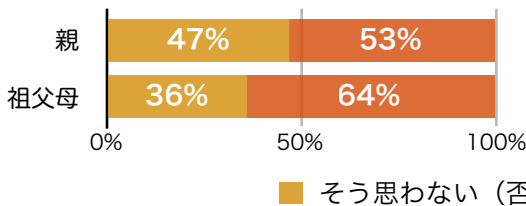
自然の場所には、毎年1・2回が4割ほどで、海に泳ぎに行ったりすることが多いようです。でも2割ほど「行ったことのない」子もいます。



## 大人の役割

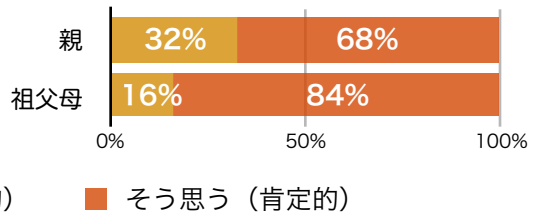


子どもに植物・魚など、自然との  
関わり方を教えている



子どもたちの回答のとおり、祖父母では6割、親でも半数が子どもに、自然との関わり方を教えていると答えています。

子どもが外であそぶよう、大人  
が促進したほうがいい。



祖父母では8割、親でも7割が子どもが外であそぶように、促進したほうがいいと思っているようです。

▶ 大人が、自然のことについて子どもたちに伝えていくこと  
魅力を伝えていくことが重要だという思いが読み取れます。



# おわりに



あそびの「まほう」を見直すことで  
まちとの関わり合いを考える。

Q アンケート結果を見て、  
どう思いましたか？

? 10年後は、  
どのようになると思いましたか？

最後の「思い」において、子どものあそびに  
大人が関わることの重要性が示されました。

子どものあそびの「まほう」を  
もう一度豊かなものにするために…

大人自身の子ども時代のあそびの「まほう」  
を活かしていくことが大切です。







一般社団法人  
**プレーワーカーズ**



発行日：2020年3月1日

発行者：一般社団法人プレーワーカーズ <http://playworkers.org/>

共同作成者：一般社団法人陸駒舎

：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校

イラスト：小原純 エルミロヴァ・マリア

監修・デザイン・調査分析：千葉大学大学院園芸学研究科 木下勇研究室 寺田光成

本冊子は、復興庁「心の復興事業」の助成を受けて作成しました。

